

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
若月		6. (4)	審議中問題 となった点	ge	文中に「危険が伴うが～」とありますが これはどういう意味でしょうか？		IEC63294 で規定するハロ ゲンの定量試験の 6.17 に は“警告-潜在的に危険な性 質のため、ドラフト内で安 全スクリーンを使用して操 作する”とあるように危険 性のある試験です。 具体的には金属ナトリウム を試験管の口に置き、熱す ることによって溶融させ、試料に 反応させますが激しい反応 が起こる可能性があります。 また、そこで熱したチ ューブを蒸留水に浸して急 冷して粉砕するといった手 順を伴う試験です。 十分な安全対策を準備する 必要のある試験であるとい う意味です。
加藤	461	6.14.3				もしあれば → ある場合	「もしあれば」を「ある 場合」に修正する
加藤	478	6.15.2			アルミニウムブロックの説明なので、試験片の質 量ではないのでは？	<u>試験片の質量</u> は → 質量は	「 <u>試験片の質量</u> は」を「質 量は」に修正する

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
本吉	158	3.1.9		ge	今回追加した定格表示値の英語の記載がない	英語を記載	「定格表示値」は JIS 独自で作成した表現のため、国際規格等には該当する表現が無く英語表記をしていませんでした。 本文に英語表記が必要な場合は「rated resistance value」を使用します。
本吉	159	3.1.9		ge	3.1.8 の中央表示値が「・・・抵抗表示値」とされているが今回追加の 3.1.9 の定格表示値も「・・・抵抗表示値」と合わせたほうがよいのではないか	抵抗値を抵抗表示値とする	提案のあった修正案の表現に変更します。
本吉	128~	3		ge	主な改正点で「用語及び定義（箇条 3） [*] 測定不確かさ"、及び" 定格表示値"を追加する。」と記載されているが、「測定不確かさ」が追加されていない	必要により追加するか、改定点の説明を修正する	JEMIMA md_6253(経過報告書)_C1302_20241129_管情_T_nabe_修正_mabe_修正（清書版）に記載していた主な改正点の説明が間違っていますので修正します。 [修正内容] ・用語及び定義（箇条 3） [*] 定格表示値"を追加する。
加藤	267-269	6.4			3.1.4 定格電流において、定格電流は製造業者が割り当てた電流としているので、8.4 で試験をしなくても 1 mA 以下ではないのか。また、PV 絶縁抵抗計も同様に製造業者が割り当ててるものである	定格電流は、 <u>8.4 の方法によって試験したとき、1 mA 以上でなければならない。ただし、PV 絶縁抵抗計においては、定格電流が 1 mA 未満でもよい。PV 絶縁抵抗計の定格電流は、製造業者が定めなければならない。</u>	定格電流は製造業者が割り当てているが、PV 絶縁抵抗計以外は 1mA 以上の要求があるため、試験によって確認する必要があると考えます。

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員 名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇 条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
					るので、特に定める旨の要求は必要がないと思われる また、“8.4 の方法によって”というのは、判定方法であり、要求事項ではないので、分けた方がよいのではないか。一般に、定格値は製造業者の指定値であり、試験では、その値の適切性を確認するものでは 通常は、実測値に対し、表示が適切かどうかを判断するが、それについては特に記載がないが、それでよいか	→ 定格電流は、1 mA 以上でなければならない。ただし、 <u>PV 絶縁抵抗計においては、定格電流が 1 mA 未満でもよい。試験は、8.4 の方法によって行う。</u>	また、試験方法を要求事項と分けて表現する方法は指摘のように対応しても良いですが、その場合 6.4 項だけでなく、6 項ほぼ全ての表現を変更しないといけなくなるため、大きな問題でなければ現在の表示のままにしたいと思います。
加藤	454	8.4			“PV 絶縁抵抗計は、製造業者が定めた定格電流値を使用して試験する”とあるが、定格電流値を流して As で測定する、と考えてよいか？（8.4 は定格電流の試験であるが、定格電流を用いて行う試験とは何になるのか？）	？	指摘のように定格電流値を使用して試験するという表現は意味を成さないため、 「ただし、PV 絶縁抵抗計は、製造業者が定めた定格電流値を使用して試験する。」の文章は削除します。
加藤	556				“定格測定電圧の 0 %～+6 %の範囲内”の 0%は誤解を与えるのでは	定格測定電圧の <u>0 %～+6 %</u> の範囲内 → 定格測定電圧の <u>100 %～106 %</u> の範囲内	提案のあった修正案の表現に変更します。

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員 名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇 条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	195 200 374 379	表 1 表 2 表 A.1 表 A.2	注記 注記 注記 注記		表の項目に“最小仕上がり外径”はない	最小仕上がり外径 → 最大仕上がり外径？	IEC の原文含め、内容に間違いは無く、修正は不要です。 表の注記にある 「算出している」を、 「算出可能である」に修正します。
加藤	199	表 2			公称導体径 0.210 及び 0.220 の融着層最小両側被膜厚さの欄の値が前の値（0.011）より小さくなっているが、正しいか	0.006 → 0.011 又は 0.012 ？	拝承 いずれも 0.012 に修正します
加藤	200	表 2	注記		表の項目に“最小仕上がり外径”はない。“最大仕上がり外径”のことではないのか	最小仕上がり外径 → 最大仕上がり外径	IEC の原文含め、内容に間違いは無く、修正は不要です。
加藤	228	表 3	脚注 3 段落目		附属書 C は“規定”に変更されている。参考値ではないのでは	“参考値として”を削除	拝承
加藤	311	表 11			公称導体径 0.750 のグレード 2 高温欄が前の欄の値（3 600）より小さくなっているが、正しいか	3 360 → 3 600 か 3 650？	拝承 誤記の為、「3 650」に修正します。
加藤	326-327	箇条 15	第 2 段落		点線下線が引かれているが、対比表に記載がない。デビエーションなのか、そうでないのか、どちらか	要求があれば、エナメル線の供給業者は、線が要求温度指数を満足することを明らかにしなければならない。 → 点線下線をとるか、対比表に記載	325 行目から、以下のよう に修正し、対比表に注記に ついて追記します。 「温度指数は、関連規格が 定める温度以上であって、 最も低い試験温度における 平均寿命は 5 000 時間以上 でなければならない。 注記 温度指数は、ワ ニス含浸していないエナメ

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							ル線での 20.000 時間外挿による寿命であり、絶縁システムの一部としての温度指数ではない。温度指数は相当する温度 (°C) での線の使用を必ずしも推奨するものではない。使用温度は、使用機器に含まれる多くの要因に依存する。
加藤	374	表 A.1	注記		表の項目に“最小仕上がり外径”はない。“最大仕上がり外径”のことではないのか	最小仕上がり外径 → 最大仕上がり外径	IEC の原文含め、内容に間違いは無く、修正は不要です。
加藤	386	附属書 B	第 2 段落		“次” がどこまでなのか明確にする	次の → B.1 及び B.2 の	拝承
加藤	412	表 C.1			公称導体径 0.63 の最小欄 3 桁ごとにスペース	0.05335 → 0.053 35	拝承
加藤	472	附属書 JB	箇条 22 d)欄		誤記	整合できるようにしするため → 整合できるようにするため	拝承

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

第 32 回電気分野産業標準作成委員会_コメント及び回答

日付:	規格番号:C3215-0-2	プロジェクト:
-----	----------------	---------

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
西原	124、 136				記載内容の確認です。124 行目は本規格では用いられないが記載、136 行目では国際規格にあるが文中に用いてないので不採用（記載しない）となっています。どちらも国際規格にはあるが、本規格で用いられていない状態だとすると片方は記載し、片方は記載しないのにはどのような違いがあるのでしょうか？教えてください。		クラス（class）について、JIS C 3215-0-2 では用いていないが、JIS C 3215 シリーズで用いられているため、記載を残しました。
加藤	275	8.0A			他の個所と同様に、下線が必要ではないか？	“試験方法は、JIS C 3216-3 の箇条 5（可とう性及び密着性）による。” に点線下線を引く	拝承 ご提案の通り、点下線を追加します。
加藤	303	箇条 13	表 8		絶縁破壊電圧の単位がない	“単位 V” をどこかに記載する	拝承 表題の下（304 行目）に“単位 V” を追加します。
加藤	341	箇条 23	c)			もしあれば → ある場合	拝承 「ある場合」に修正します。
加藤	362	表 A.1			幅 13.00 の厚さ 2.00 と 2.20 の断面積欄 両方とも 25.64 だが、それで正しいか	2.00 25.64 → ? 2.20 25.64 → ?	2.00 25.64 → 修正必要 無し 2.20 25.64 → 28.24 に 修正します
加藤	386 ?	JA.4	表 JA.1		1.0 の 2.2 及び 2.4 の欄 他の欄と比較して小数点の位置が違うのでは	11.9 → 1.19	拝承 誤記の為「1.19」に修正します。
加藤	386 ?	JA.4	表 JA.3		厚さ 1.6 の幅 2.2 2.4 の欄 他の欄と比較して、値が逆なのは？ 表の右に行くにつれて数値が小さくなっているなので、幅 2.4 の値の方が 2.2 の値より小さくなると思われる	5.102 (2.2) 5.172 (2.4) → 5.172 (2.2) 5.102 (2.4)	拝承 誤記の為、2.2 欄は「5.172」、2.4 欄は「5.102」に修正します

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上
*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。
コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

第 32 回電気分野産業標準作成委員会_コメント及び回答

日付:	規格番号:C3215-0-2	プロジェクト:
-----	----------------	---------

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	386 ?	JA.4	表 JA.3		厚さ 1.8 の幅 2.8 の欄 小数点抜け	3858 → 3.858	拝承 誤記の為、「3.858」に修正します
加藤	386 ?	JA.4	表 JA.3		厚さ 2.2 の幅 4.5 の欄 小数点抜け	1871 → 1.871	拝承 誤記の為、「1.871」に修正します
加藤	436	附属書 JD	箇条 15 d)欄		箇条 15 の点線箇所は“温度指数の試験は、 <u>JIS C 3216-6 の箇条 5 (温度指数) によって、平角線を用いて行う。</u> ”であり、JISC3216-6 の JA.3 には触れられていない。 意図が伝わるように、対比表か本文を修正、又は対比表から削除する	我が国における測定の実態を踏まえ、受渡当事者間の協定によって、 <u>JIS C 3216-6 の JA.3</u> の試験方法を選択してもよいこととした。 → ?	拝承 JIS C 3216-6 の箇条 5 (温度指数) は IEC 60172 による試験 (IEC 60317-0-2 規定と同じ) 又は当事者間の協定による JA.3 の選択となっています。JIS C 3216-6 での選択であり、JIS C 3215-0-2 内での選択ではありませんので、対比表から削除します。
本吉	387	附属書 JA	表 JA.1 表 JA.3	ge	今回導体寸法の範囲を幅(2.00～16.00mm 以下)→(2.00～31.5mm 以下)に変更したことに伴い、表 JA.1 および JA.3 で表される代替特性についても拡大した範囲までカバーする方がよいのではないか	幅 (2.00～31.5mm) まで対応した表にする	附属書 JA は、JIS C 3202:1994 に従った規格値を併記したもので、該当規格の導体寸法 (幅) の範囲は 2.00～16.00 mm なので、変更の必要はないと考え、このままとします。
本吉	401	附属書 JB	表 JB.1	ge	今回導体寸法の範囲を幅(2.00～16.00mm 以下)→(2.00～31.5mm 以下)に変更したことに伴い、表 JB.1 で表される特殊許容差についても拡大した範囲までカバーする方がよいのではないか	幅 (2.00～31.5mm) まで対応した表にする	附属書 JB は、過去の経緯に基づき設定されたものと思われるので新規追加された範囲に対応する必要はないと考えこのままとします。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレート

日付:	規格番号: C3215-0-3	プロジェクト:
-----	------------------------	---------

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	106	箇条 2				JIS C 3108 を JIS C 3215 の前に移動	拝承
加藤	177	3.3	第 2 段落		数字 3 桁毎にスペース	0.1000 → 0.100 0	拝承
加藤	207	箇条 5	第 1 段落		“及び” としているが、JIS H 4000 と JIS C 3108 は単独で適用せず、二つ一緒に適用する規格なのか？	JIS H 4000 及び JIS C 3108 → JIS C 3108, JIS H 4000	JIS H 4000, JIS C 3108 が 合わさって EN, ASTM と 同等となるため、JIS のみ は二つ一緒に適用する必要 あります。 記載について拝承 JIS C 3108, JIS H 4000 に 修正します。
加藤	234	8.4			箇条 7 のように、試験方法は記載しないのか？	“試験方法は、JIS C XXXX の箇条○による。” を追加する	拝承 「試験方法は、JIS C 3216- 3 の箇条 5.4（剥離試験） による。」 に修正します。
加藤	261	13.2	表 6		導体径 0.900 のグレード 2 高温欄の値に点線下線 が引かれているが、デビエーションか？	3.800 → 3 800	拝承 デビエーションではないの で、修正します。
加藤	386	附属書 JB	箇条 4 一つ 目 d)欄		JIS C 3216-2 の JA.1 による旨は本文中にない	“この場合、試験方法は、JIS C 3216-2 の JA.1 によることとした。”を削除する	4.0A 末尾に「この場合、試 験方法は、JIS C 3216-2 の JA.1 による。」を追加しま す。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員 名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇 条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
本吉	186	4.1		ge	今回の改正点である厚さ 5.6mm～10.0mm が追加されていない	規格の範囲「厚さ 0.80mm 以上 10.0mm 以下」に変更する	拝承 － 厚さ 0.80 mm 以上 10.00 mm 以下 に修正します。 IEC60317-0-4 と相違が出るため点下線を引き、附属書 JC の 4 の下に追加記載します。 a) →4.1 b) →変更 c) →対応国際規格にて、面取半径等に 5.60～10.00 mm の範囲が追加されたが、4.1 の記載範囲は 5.60 mm 以下でそご（齟齬）があり、4.1 が明らかに誤記であることから、導体厚さの規格の範囲を（0.80 mm 以上）10.00 mm 以下に変更した。 d) →次回改訂時に、IEC へ提案を検討する。
本吉	128～	3		ge	主な改正点で「グレード 2 のエナメルガラス巻平角銅線について、最小絶縁破壊電圧を厳しくす	必要により追加するか、改定点の説明を修正する	現行 C3215-0-4：2014 は一重巻：1 500 V、二重

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)
2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員 名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇 条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
					る」と記載されているが、表 7 には記載されてい ない		巻：2 000 V であり、今回 表 7 で 2 350 V，2 560 V に変更しているため、本体 の修正不要とします。
加藤	357	附属書 JB	表 JB.1		項目名欄 “L”抜けでは	グレード 2G1 → グレード 2GL1 グレード 2G2 → グレード 2GL2	拝承 案のとおり修正します。

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

日付:	規格番号: C3215-17	プロジェクト:
-----	-----------------------	---------

委員 名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇 条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
西原	145	10 耐軟化			記載内容の確認です。「耐軟化の規格値は、検討中である」について、JISC3215-17 : 2014 では「適用しない」と記載されていますが、今回変更になったのは、国際規格が同様に検討中に変更されているため、記載を合わせていると解釈すればよろしいでしょうか。そうでなければ理由を教えてください。		ご認識のとおりです。 IEC60317-17 : 2020 で、 Test under consideration になっているため記載を合わせています。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

第 32 回電気分野産業標準作成委員会_コメント及び回答

日付:	規格番号: JIS の訂正について JIS C 61000-4-3:2022	プロジェクト:
-----	--	---------

委員 名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇 条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
若月		6.3.1	注記 3	ge	電界強度 ET とレベル設定電界強度 EL の違いは？		ET は、EUT（供試装置）に対する試験 時の電界強度で、EL は ET を発生させ るために必要な試験信号発生器の出力を 調べる（これをレベル設定という）とき の電界強度です。EL は余裕をもって ET を発生させられるように ET より高い値 とします。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。